手術前オリエンテーション説明用紙の見直し

ー69名のアンケート調査を実施してー

A棟5階南
○平　井　美　穂　　高　栄　かおり
植　田　明佐美　　日　比　由衣子
高　橋　英　子　　余　野　博　子

はじめに

当婦人科病棟では手術を受ける患者が安心して手術を受けられ、手術後のイメージが出来るよう手術前オリエンテーションを行っている。従来は手術2日前を目安に行っていたが、近年の医療の変化に伴い在院日数の短縮化となり、手術前日の入院が増えたため手術前日にオリエンテーションを行うことが多くなった。実際、当病棟でも本年7月よりクリティカルパスが導入されているが、手術前説明用紙（以下、説明用紙）は従来のものを修正せずに継続して使用している。しかし、手術前に時間的余裕があった頃に用いていた説明用紙で、現在でも患者が安心して手術を受けられているのか、また手術後の経過や処置・日常生活などについて十分理解できないまま手術を受けている患者もいるのではないかと疑問に思った。

そこで今回、クリティカルパス導入にあたり説明用紙を見直すことになり、説明用紙の改善すべき点、および今後の課題について検討し、患者のニーズに合わせた説明用紙を作成するため、手術を受けた患者にアンケート調査を行った。

研究方法

1）調査期間

平成18年8月18日～平成18年9月30日

2）研究対象

当病棟で平成18年4月～9月に予定手術を受けた10才代～70才代の患者69名

3）方法

入院中の患者22名：研究内容を説明し同意を得て、アンケート用紙を配布し記入してもらい、回収した。

退院後の患者47名：アンケート用紙と説明用紙を同封し主旨を理解した上で返信してもらった。

4）倫理的配慮

調査内容は研究以外に使用しないことを説明し、この調査に参加しない場合も診療上不利益を生じないこと、無記名方式で行うことを説明し、同意を得た人に実施した。

結　果

アンケート回収率は72％であった。「年齢」は、10才代1名（2％）、20才代5名（10％）、30才代5名（10％）、40才代20名（40％）、50才代9名(18％)、60才代7名(14％)、70才代3名(6％)、未記入2名（4％）で平均年齢47.7才であった（**図1**）。

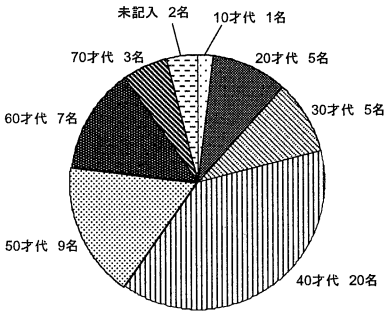

図1　年　齢

入院してから手術までの日数は、1日が25名(50%)、2日が10名(20％)、3～5日が7名(14%)、6～10日6名（12％）、11日以上1名（2％）、未記入1名（2%）、平均日数は2.72日であり、手術前日入院が半数であった（**図2**）。

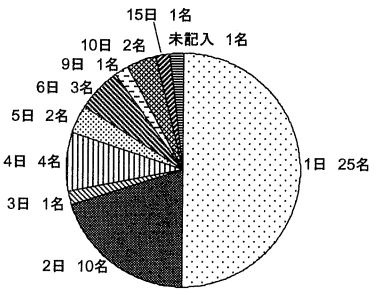

図2　入院してから手術までの日数

用紙のレイアウトは見やすいが、44名（88%）であり（**図3**）、字の大きさは、適切が45名（90%）であった（**図4**）。

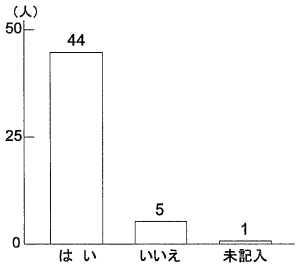

図3　用紙のレイアウトは見やすかったか

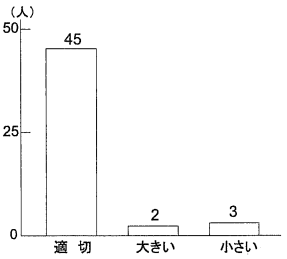

図4　字の大きさは見やすかったか

準備物品を入院前に知りたかったかは、はいが46名（92%）、いいえは4名（8%）であった（**図5**）。

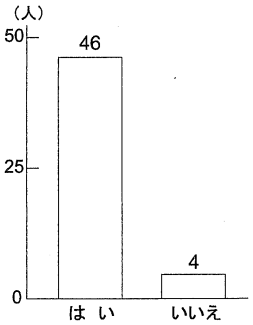

図5　準備物品を入院前に知りたかったか

入院前に手術後の一般的な経過を知りたかったかは、はいが26名（52%）、いいえが20名（40%）であり、大差がなく未記入が4名（8%）であった（**図6**）。

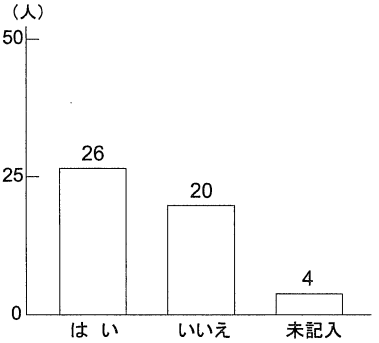

図6　入院前に手術後の一般的な経過を知りたかったか

看護師の説明は理解しやすかったかは、はいが46名(92%)で、いいえが3名(6%)、未記入が1名(2%)であった(**図7**)。不安に思ったことはなかったかは、はいが41名（82%)、いいえが9名（18%）であった（**図8**）。

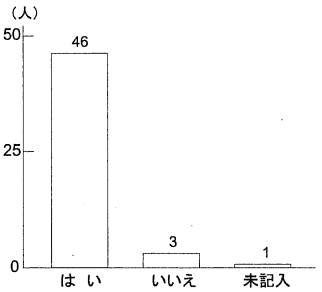

図7　看護師の説明は理解しやすかったか

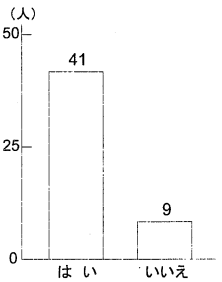

図8　不安に思ったことはないか

説明用紙は手術後経過の参考になったかは、はいが44名（88%)、いいえが4名（8%)、未記入が2名（4%）であった（**図9**)。家族は説明用紙を参考にしたかは、はいが43名（86%)、いいえが3名（6%)、未記入が4名（8%）であった（**図10**)。

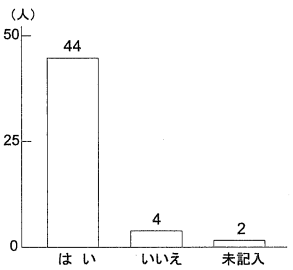

図9　説明用紙は手術後経過の参考になったか

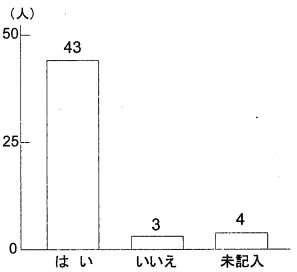

図10　家族は説明用紙を参考にしたか

考　察

平均年齢は47.7才と理解力のある年齢であり、用紙のレイアウトや文字の大きさが見やすいという

答えが88%を占めていた。しかし、字が小さいという意見をもつものが高齢者で1名（2％）であった。今後高齢者の手術を受ける割合が高くなると考えられるため、文字の大きさなど考慮する必要がある。

手術の準備物品を「入院前に知りたかった」が92%と多かったが、手術直前での説明の際に物品の説明をすることはやはり問題があると考える。つまり、必要な物品は自宅にあるものの入院時に持参しておらず、手術までの期間があまりに短いため取りに帰れずに購入するか家族に届けてもらうことになり、患者の負担がとても大きいと思われる。手術前に時間的余裕をもって準備できるよう、入院前外来診察の際に必要物品を説明しておくことが必要だと考える。そのため、病棟と外来で密に連携をとっゆくことが大切である。

手術後の経過を入院前に知りたかったが52%、知りたくなかったが40%であった。知りたくなかった人の年齢は30才から70才代であり、高齢者が多いわけではなかった。知りたい人が大多数であると考えていたが、アンケート結果では予想外であった。理由として手術後の事は怖いので知るのをためらったのではないかと考える。そのため今後知りたくない人の理由の調査も必要である。

手術前オリエンテーションについて、高橋は「手術に備えての身体的、精神的ケア、必要物品の準備、手術直後から回復期に備えての日常生活動作に関する指導・訓練などについて、説明したり、指導したりすること[1)]」と述べている。当病棟でも患者の不安や緊張を和らげ、前向きに取り組んでいけるようにとの思いで手術前オリエンテーションを行っている。しかし今回アンケート結果より、以前から用いていた説明用紙ではクリティカルパスが導入された現在の状況には対応しきれていない点が多くあることが分かった。このことから、患者ニーズに沿った説明用紙を作成する必要があると考える。

おわりに

今回アンケート調査により、クリティカルパスを導入し在院日数が短縮傾向にあるなか、説明用紙の文字の大きさや必要物品、術後経過の記載方法などの改善すべき点がわかった。患者サービスの面からも今後は、入院前の外来受診時に手術準備物品を説明するなど、婦人科外来との連携をとっていくことも重要だと考える。

引用文献

1）高橋美智：術前オリエンテーション、手術患者の看護 看護MOOK、60 － 66 , 1984.

参考文献

1）片岡典代他 : 入院時オリエンテーションに対する期待、看護管理 35; 229 － 231,2004
2）四宮知子他 : 術前オリエンテーションに対する術後患者の認識、第32回成人看護 I; 98 － 100, 2001.
3）中川貴恵他 : 手術患者の術前の不安の経時的変化とその分析、第31回成人看護 I; 97-99, 1996.
4）矢島純子他：クリティカルパスを用いた短期入院患者の満足度の実態、第31回看護管理 ; 30-32, 2000.